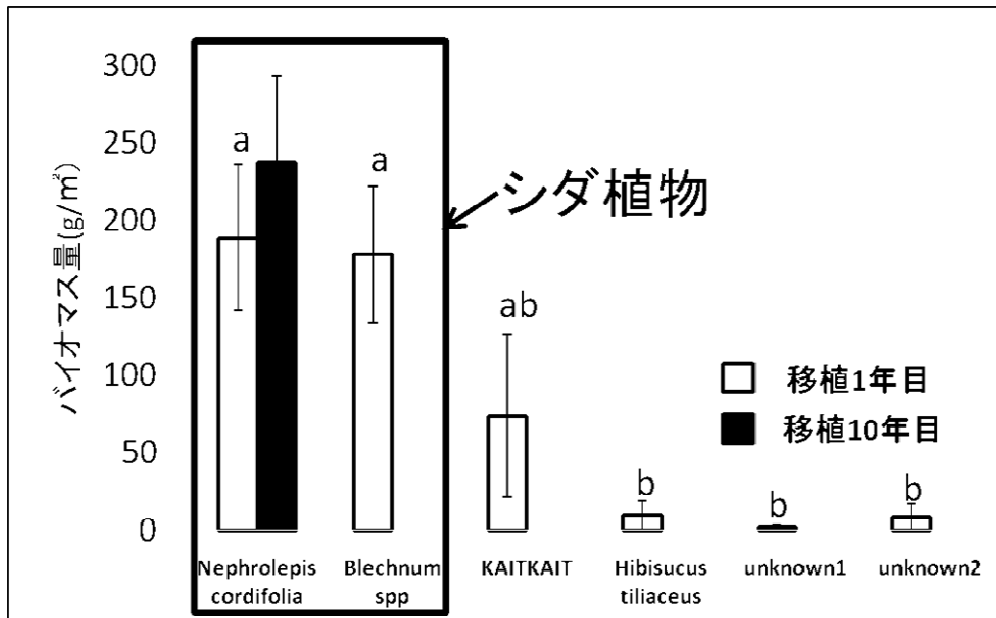


210. 熱帯泥炭地に展開されたサゴヤシ圃場の多年生植物について

栽培土壌学分野 入江 修平

【背景】熱帯泥炭地は強酸性、貧栄養、高地下水位であるために作物の栽培には適さない。現在、インドネシアの熱帯泥炭地では、唯一そのような土壌下でも生育が可能であるサゴヤシの商業的な栽培が行われている。しかし、泥炭地の立地条件は人の活動をも制限するために、十分な栽培管理を行うことが困難である。特に除草管理の不備がサゴヤシ栽培の問題となっている。サゴヤシは移植から収穫まで8~15年と長く、樹高は20mまで増大して、樹冠を形成する。そのため、雑草の生育環境は移植直後と樹冠を形成した後では異なることが考えられた。【目的】サゴヤシ移植直後と樹冠形成後の雑草の種類・バイオマス量を明らかにする【材料と方法】調査地：インドネシア国リアウ州トゥビンティンギ島泥炭地サゴヤシ圃場。調査区：サゴヤシ移植1年目区（移植直後）、10年目区（樹冠形成後）。調査日時：2009年7、10月。測定項目：草本種 2m×2m区画内バイオマス量、種類。木本種 縦250m×横5m 12.5a範囲内個体数、種類、樹高。【結果と考察】サゴヤシ圃場では草本種・木本種が観察された。草本種では移植1年目区のバイオマス量が移植10年目区より有意に高かった。移植1年目区では6種類が観察され、シダ植物 *Nephrolepis cordifolia* と *Blechnum spp* が優占種であった。移植10年目ではシダ植物 *Nephrolepis cordifolia* 1種類が観察された。木本種は移植1年目区に見られなかった。移植10年目区の木本種は優占種 *Pandanus spp*、推定124本/ha、樹高は2.7~5.5mとなった。いずれの木本種もサゴヤシの樹高よりも低い状態であった。以上より、熱帯泥炭地のサゴヤシ圃場では、サゴヤシの生育にともない、雑草が草本種から木本種へと変化することが考えられた。



生育段階の異なるサゴヤシ圃場における草本雑草の種類およびバイオマス量